

本日の主な論点

これまでの議論から、本県の長期的な持続可能性を考えるならば、都市集住型よりは地域分散型の社会構造を目指すべきことが見えてきた。その基盤となる移動・交通ネットワークの将来像はどうあるべきかについて、その方向性を検討する。

論点 1 広域移動の未来

- ・県内外との広域的な移動の未来はどうなっているか、どうしていききたいか。人流、物流それぞれにどのような未来の姿が考えられるか。
- ・基幹道路ネットワークの将来像はどうあるべきか。本県の基幹道路ネットワーク整備基本計画に位置付けられている構想路線について、どのように考えるか。
- ・道路以外のネットワーク（空港、鉄道、港湾）の将来像はどうあるべきか。その背景としてどんなことが考えられるか。
- ・県内3空港（伊丹、神戸、但馬）をどのように活用していくべきか。
- ・鉄道の未来はどうなっているか。路線の新規敷設の可能性はあるか。

論点 2 日常の移動の未来

- ・県民は日常生活の中でより多く移動するようになるか、またはその逆か。ICTの発展や働き方の変化は、県民の日常の移動にどのような影響を与えるか。
- ・地方部は人口減少、疎住化により、食料品や日用品の調達、金融機関などの生活利便施設の撤退・集約などの流れが考えられる。日常生活の必要物資の調達はどのような形で行われるようになるか、どのような形で行われるようにしていきたいか。
- ・路線バスなどが撤退し、住民の移動コストが増嵩するなかで、高齢者や子どもの移動手段をどう確保するか。